

# 白山手取川に育くまれた伝統工芸



## ① 太鼓

太鼓は加賀藩の時代に、武芸より文化芸能に力を入れたことで需要が高く、江戸時代初期から伝わる技法と霊峰白山を源とする手取川の清流によって鍛えられた皮は、優れた耐久性と美しい音色を生み出すことで知られています。

## ② 美川仏壇

美川仏壇は堅牢で荘厳、そして華麗なつくりだといわれています。その最大の特徴は型を用いる堆黒で、これに金箔を施すことで装飾としての意味だけでなく、錆を防ぐ効果も併せ持ちます。熟練された技で製作される美川仏壇の耐久性は300年ともいわれています。

## ③ 加賀獅子頭

加賀獅子頭は加賀藩の時代より、多くの彫刻師や仏師等によって製作されてきました。八方睨（はっほうにらみ）とよばれる左右に鋭く広がる両眼が特色の一つで、お正月飾りやお祭りでの獅子舞、お祭り飾りをはじめとした祭祀や魔除厄徐として古くから親しまれています。

## ④ 鶴来打刃物

鶴来打刃物は、その産地である旧鶴来町（つるぎまち）が、かつて刃物鍛冶が盛んな土地柄であり、農業用や山林用、家庭用など、人々の生活に根付いた打刃物を作っていました。現在も注文に応じて、非常に珍しくなった「野鍛冶」により、鋏、鎌、鉞、鉋などを製作しています。





## ⑤ 檜細工

檜細工は軽く、通気性と耐久性があり、山仕事、農作業、日常生活等、様々な場面で多くの人々に愛用されています。檜笠をはじめ、一輪挿しやコースター、手提げ籠など木のぬくもりが伝わる手作りの工芸品です。



## ⑥ 加賀繡

加賀繡は絹糸や金糸、銀糸など多種多様な糸を、その繊細な手縫いの技法で立体感ある美しい図柄として浮かび上がらせる特徴を持ち、きめ細かい加工や、風合いのある加工が可能であり、現在でも伝統的な手法を用いて製作をしています。



## ⑦ 牛首紬

牛首紬は白峰で古くから織り続けられており、玉繭から糸を紡ぐ伝統技法によって織りあげている。その一反一反は、絹織物と紬織物の両面を併せ持った気品のある風合いであり、別名「釘抜き紬」と呼ばれるほど強い織物でもあります。

### 水の旅と石の旅が残す地球の記憶

白山手取川ジオパークは、中部地方の日本海側に位置し、石川県白山市の全域をエリアとする日本ジオパークです。冬になると白山(2702m)周辺を中心として、積雪が非常に多くなる地域で、赤道にわりと近い世界でも有数の豪雪地帯です。その雪を源とした水が集まるのは急流の手取川で、水の流れとともに崩れやすい白山周辺から多くの石を平野部まで運び出します。これが地球の記憶を読み解くキーワード「水の旅・石の旅」であり、地域の過去から続く大地と動植物と人の歴史をつないでもいます。

